

6/30

革新

'69
6.30

全国革新タレント会議
大阪市大支部機関紙

入学治安立法、学生処分法粉碎、反戦、反安保、沖縄奪還

7/1 全関西学生総決起集会

→ 御堂筋デモに起て！

ハ医学部と連帯し、大学当局の收拾策動を断固粉碎せよ、

—— 7・1 討論集会を成功させよう ——

全市大の学生諸君！ 市大斗争は二月3号館封鎖以降一五ヶ月に及ぶところ
にいる。それは、体制への仰合と、学問・研究の腐敗をもたらしたところの教授
会自治（ハハハ大協自主規制路線）そのものにくさびを打ち込み、新しい大学の創
出を目指す斗いとして斗われてきた。しかし、この間、過去において「民主的」
と言われてきた市大当局のどうしてきた立場は何であつたのか？ それは、まさに
ハ大協自主規制路線そのものであつた。即ち、今までの一さいの自己批判をぬぎ
にしたところの「改革案」、斗う学生との国交の拒否、寺小屋による学生の分断
と收拾策動、又、教授会、協会の非公開、等々。そして、今や、6・27見解に
見られる通りに、收拾策動としての「改革案」の提示から、全学集会、機動隊導
入、授業再開を、もくろんでいることを、明確に表わしてきており、一方では
ストライキを行なっている厚生学院に対する、ハイムリミット「退学」を盾に
した煽動、大阪市議会・官憲とのゆ着、等、陰險な收拾策動を企てている。これ
がまさに、彼らの「民主的」と言われる実体である。我々は、こうした当局の
收拾策動を断固粉碎し、教授会解体、協会解体の展望を切り拓かなければなら
ない。6・20全市大統一行動は、教授会自治を粉碎していくという視点におい
て、一定価値をきたしてあろう。しかしながら、それは、抽象的に「教授会自治粉
砕」「ハ大協自主規制路線粉碎」が語られただけに届まり、市大斗争に如何にか
かわるのか、といった視点で欠落していた。6・20における広範な大衆的決起を
さらに質的に高める意味で、7・1 総決起討論集会を成功させ、当局の收拾策動を
断固粉碎しなくてはならない。

6・19、6・20 大学立法粉碎全大阪学生集会から、7・1
—— 全関西学生総決起人々 ——、対政府文部省斗争を強化せる
政府、独占資本は、現在全国的に斗われている大学斗争、安保斗争を二拳に弾
圧するべく、又、大学斗争收拾の過程に、文部官僚のハゲモノを貫徹する（大
学の帝国主義的再編）べく、大学自治立法を制定しようとしている。この大学治
理立法を粉碎しなければ、70年斗争、大学の根本的改善をめざす斗争は、きわめ
て困難な状態におかれるであろう。しかるに、一方、現在の大学斗争の重要な意
義を認識しえず、一貫して斗争に敵対してきた日共ハ民青、日本の二重ハ民青同
大学当局、その他諸々の放棄派学生は、立法をとり下げてもらう代わりに、自主
規制を行なうという立場から、立法に反対している。こうした立場は、62年の
大曾法斗争の二の舞を踏むだけで、むしろ、政府・独占資本の支配の再編強化を
許すことになるだろう。われわれは、個別大学斗争と結合し、中教審官申・立法
化粉碎を、その斗いを媒介として政府・独占資本の大学政策、その法的・制度的
枠組的保障を粉碎し解体させる斗いとして位置づけなければならない。二つした
斗いの中から、現行大学管理枠組を媒介とする政府、独占資本の大学文部政策を
真向から否定し、反独占の運動体としての人民大学の創出へと展望しなければ
ならない。外からの攻撃としての大学立法化の動きと、内からの攻撃としての大
学当局の「改革」收拾策動の中で、大学の根本的改善の斗争を強化しつつ、対政
府、文部省斗争を強化しよう。6・19——6・20の立法粉碎全大阪学生総決起か
ら、7・1 文部省斗争と連帯した御堂筋デモを断固斗い抜こう！！